

【学年】 4 年	【教科・単元など】算数「面積のはかり方と表し方」（全 1 2 時間）導入
【本時目標】 ・いろいろな方法で、面積の比べ方を考えている。 【実践の概要と子どもの様子】 ①教科書に載っているじんとりゲームをする T「じんとりゲームをしてみよう」 C どうすればじんちをくらべられるのかな。 C ぼくの方が勝った。○対○で私の勝ちだ。 ②広さの比べ方を考える T「どっちが勝ったってどうして分かったのかな」 ※どんな方法でもよいことを子どもたちに伝える C 大きな正方形のマスで比べた。長方形のマスで比べた。小さな正方形のマスで比べた。 C 2 人のじんちを切って重ねて比べた。 C マスの数で比べた。 ③広さの比べ方を話し合う C マスの数では大きさが違うから比べられないよ C どの方法が一番やりやすいのかな、すぐ求められるのではないのかな C 他の方法でもやってみたい T「次の時間はそれぞれの方法でためしてみて、どの方法がやりやすいかみんなで考えていきましょう」 ④学習感想を書く ・いろいろな比べ方があるのだと分かった。他のやりかたでもやってみたい。・マスの大きさを同じにすれば比べられる。・どの方法がやりやすいかためしてみたい。 （知的好奇心について） この学習で知的好奇心として考えている部分は、「広さの比べ方を考える」である。その段階として、ただ単に、こちらから「どちらが広いか考えよう」と投げかけても、興味関心は高まらないと考えた。そこで、「じんとりゲーム」を行った。ゲーム性（勝ち負け）を取り入れたことで、「どうしたら比べられるのだろうか」ということにスムーズにつながった。また、ゲームを多くやることで「他の方法でもできる」、「この方法が一番いい」「この方法では比べることができない」という思いになっていった。 ‘どんな方法でも’ということから、非常に興味深く取り組んでいた。自分なりの方法で、広さの比べ方を考えようとする子どもたちが多く見られた。	
【子どもたちの様子・反省】 ・子どもたちはあらゆる方法で広さの比べ方を考えていた。 （○切り取って重ねてくらべる。○ただ単にマスの数で比べる。○大きな正方形（長方形）のマスいくつ分で比べ、大きな正方形であらわせない部分は小数にして比べる。○小さな正方形のいくつ分で比べる。小さな正方形を 1 点として、点数化して比べる。） ・活動を通した学習により、興味深く取り組むことができ、一人ひとりの思考を働かせることができた。また、じんとりゲームを数多くしたことで、いろいろな方法を考えることができたり、できる方法、できない方法を見つけられることができたりした。 ・いろいろな方法がでてきたことで、「やりやすいのはどの方法か」という課題意識が持つことができ、次時につなげることができた。 ・話し合うときに、何のために話し合うのかという意識が薄い子がいた。話し合う前に、話し合う視点を確認する必要があった。	